

「ウッドスタート」で暮らしに木育!

赤ちゃんが初めて出会う「ファーストトイ」は地産地消の木のおもちゃを!

赤ちゃんが気持ちよくハイハイができる内装木質化の子育てサロンを!

このメッセージは、今、精力的に推進している「ウッドスタート」運動の市町村に向けたメッセージです。すでに、新宿区(東京)、美濃市(岐阜)、国頭村(沖縄)など全国7市町村と約束しあつたウッドスタート運動は、暮らしの真

緑のエッセイ



中に木を取り入れていくことを推進しています。第一号の新宿区は、昨年度から区内で生まれる2千5百人の赤ちゃんの誕生日祝い品として木のおもちゃを配布しています。木製玩具の地産地消の力がない新宿区をサポートするのは、姉妹都市関係にある長野県の伊那市で、木工職人が、新宿区に成り代わって全てのおもちゃを製造し、地場産業の活性化にもつながっています。私たちは、平成22年より林野庁の木育の事業を受託し、川上と川下をつなぐ「木育円卓会

議」や、木と親しむイベント「木育キャラバン」を沖繩、岐阜、青森など12地域で実施してきました。さらには、赤ちゃん木育広場セットを100ヶ所に配布し、NPO団体やおもちゃコンサルタントと共に赤ちゃんサロンを展開中です。

こうした運動の背景には、三つの方向性があります。

第一に、赤ちゃんが始めて出会うおもちゃ「ファーストトイ」は地産地消であることを推奨しています。世界第2位の森林大国であり、物

を持つているかどうかは大切なポイントとなります。

そして、第三に地場の木工業の活性化につながることを目指します。木工職人たちが、木のおもちゃを作って生業として成り立つ仕組みを作っていただきたいのです。全国デビューの機会も東京おもちゃ美術館は積極的に作り、子育て支援といった枠組みだけではなく、地場産業支援にもつなげる好循環作用を創り出すことに努めています。

市民や消費者に呼び掛け、こうした川下から

づくりの匠のレベルが高い日本でありながら、木のおもちゃの自給率は1%を切っているといわれています。感性豊かな乳幼児期は特に、におい、さわり心地、味わいなど五感に程よい刺激を与える木のおもちゃは最適です。

第二に、若いママ・パパを木のファンにすることに努めています。地産地消のおもちゃで、我が子と遊ぶことは、かなりの高い確率で木に親しみを感じ、木を暮らしに取り入れれようと関心が高まるようです。学習機の購入や一軒家を建てたりする子育て時期、親たちが木に親近感

●プロフィール
認定NPO法人日本グッド・トイ委員会理事長、東京おもちゃ美術館館長、早稲田大学、お茶の水女子大学講師。新宿の廃校に開設した東京おもちゃ美術館のユニークな国産材の木の利用によって、林野庁長官から感謝状を受け、さらに経営手法を評価され、経済専門誌から日本の社会起業家30人の一人に選ばれた。現在、暮らしの中に地産地消の木製商品を取り入れる「ウッドスタート」運動を7市町村と展開中。「暮らしにウッドスタートを!」(仮称・幻冬舎エテューショナル)が4月に刊行。

国産材を利用するうねりをつくり上げて、日本の山や森に社会的変革を起こすひとつの草の根運動は、まさに、里から山へ、川下から川上に向けてのラブコールです!

大手自動車メーカーも全国のショールームに木育広場を設置し、大手スーパーマーケットも社有林を使っておもちゃの広場を100カ所作っていく構想を一緒に練り上げています。

市町村といった行政だけではなく、民間企業とも手を取り合って、ウッドスタート運動は展開中です。